

TV (1-3ch) ・FM /AM ラジオ

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ICF-B100

©1995 Sony Corporation Printed in Japan

警告 予備用電池には、リチウムなどの可燃性物質が含まれていますので、下記の注意事項を守らないと発火、破裂により、けがをしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

- 火の中にいれない。ショートさせたり、分解、加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 充電しない。
- +と-の向きを正しく入れる。
- 電池には直接ハンダ付けをしない。

主な特長

非常時に役立つ非常用ラジオ

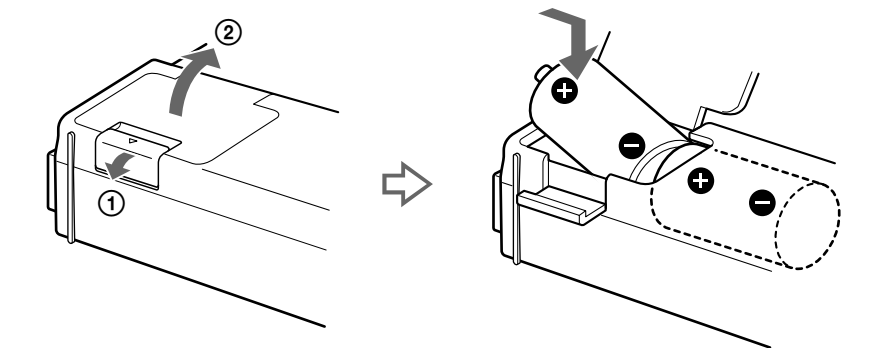
- 単1、単2、単3、いずれかの乾電池2本で使えます（マルチバッテリー方式）。また、長期保存に適したリチウム電池*を内蔵しています。
- 大きな音量で非常事態を周囲に知らせる非常用ブザー搭載。
- 乾電池の残量がわかるバッテリーチェック機能。
- 暗いところでの選局に便利なダイヤル照明機能。
- 多少の雨や雪、水しぶきのかかるところでも使える防滴機構**。

* 一般の乾電池に比べて保存性能が良く、無使用の状態で長期保存ができます。

** このラジオの防滴の種類は防滴Ⅱ形（JIS.日本工業規格）です。多少の雨や雪、水しぶき程度でしたら支障なく使用できますが、水の中につけたり、湿気の多い風呂場などに長時間放置すると故障の原因となることがあります。

電池を入れる

付属の単1形乾電池2個を入れます。
また、単2形、単3形乾電池でも使うことができます。

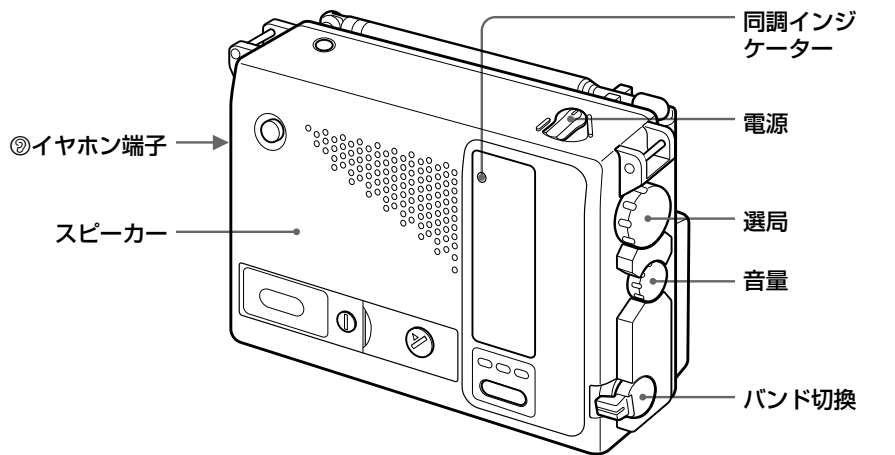


- 1 乾電池ぶたを開ける
- 2 同じ種類の乾電池を、+と-の向きを正しく入れる

ご注意

- 形の違う乾電池を混ぜて入れないでください。
- 電池を出し入れするときは、指をはさまないようにご注意ください。

ラジオを聞く



- 1 電源スイッチを「入」にして電源を入れる
- 2 バンド切換スイッチでFM/TV（1-3）、またはAMを選ぶ
TV(1-3ch)放送を聞く場合はFMIに合わせます。
- 3 選局つまみを回して聞きたい放送局を選ぶ
放送を受信すると同調インジケータが点灯します。
- 4 音量つまみを回して音量を調節する

電源を切るには

電源スイッチを「切」にします。

使う電池によって電池切換スイッチを切り換えてください

単1、単2、単3形乾電池：「主電池」側
リチウム電池：「リチウム電池」側

ご注意
リチウム電池は非常時にお使いいただくことを想定して内蔵していますので、通常は乾電池をお使いください。

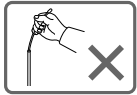
受信状態を良くするには

FM/TV（1-3）放送
ロッドアンテナを伸ばし、受信状態が最も良くなるように長さや角度を調節します。

AM放送
指向性のあるアンテナを内蔵しているので、受信状態が最も良くなるようにラジオの向きを変えてください。



ロッドアンテナの角度を調節するときは、付け根の部分を持ってください。先端部分を持ったり過剰な力を加えると、アンテナを破損することがあります。



テレビ放送の受信についてのご注意
地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。

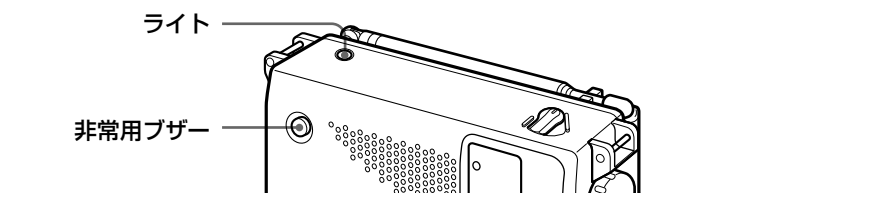
別売りのイヤホンで聞くときは

イヤホンを◎イヤホン端子につなぎます。
イヤホンをつなぐとスピーカーから音は出なくなります。

ご注意

- イヤホン使用時は警報音を鳴らさないでください。警報音の音量は調節できません。大きな音が出ますのでご注意ください。
- ◎イヤホン端子にイヤホンを差し込んでいないときは、必ず端子ぶたを閉めておいてください。閉めないと、防滴効果がなくなります。

便利な機能を使う



■警報音を鳴らすには

非常用ブザーボタンを押します。
ボタンを押すだけで、電源の「入/切」に関係なく警報音が鳴ります。
音を止めるには、非常用ブザーボタンをもう1度押します。

警報音の鳴りかた

警報音はラジオがついているときと、いないときでは鳴りかたが異なります。また、使用している電池の種類や残量によっても、音や鳴りかた、音量などが異なります。
ラジオ受信時：ピピピピピ……
ラジオ切時：ピピピ、ピピピ…

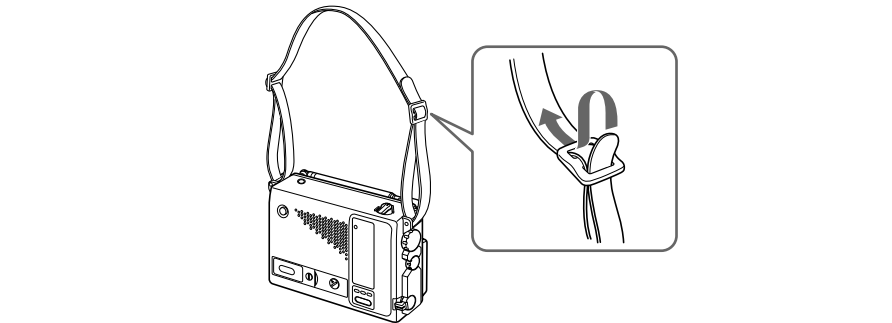
- ご注意
- 警報音の音量は調節できません。大きな音が出ますので、通常時の使用にはご注意ください。
- 警報音は、周囲の雑音や状況によって、周りに聞こえにくくなる場合があります。

■ライトを使うには

ライトボタンを押している間、ダイヤル目盛り板が照明されます。
このラジオは、手元を照らす程度の光量があります。

■キャリングベルトを使うには

付属のキャリングベルトを本体側面のベルト通しにとりつけます。



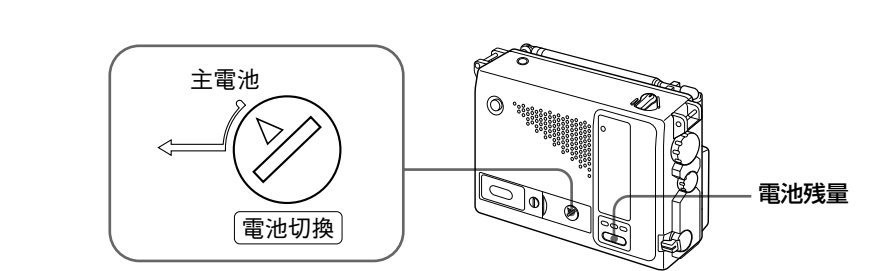
■暗闇でラジオを見つけるには

付属の蓄光シールを目立つところに貼ります。消灯後、約2時間光りますので、暗いところでラジオを探すときの目安となります。

- ご注意
- 蓄光シールは明るいところで光を吸収し、その分だけ暗くなってから光を放出します。ふだんは明るいところに置いてください。
- 貼る場所を乾いた布でよくふいてからシールを貼ってください。また、粘着力が薄れるため、一度貼ったら取らないでください。

電池を取り換える

非常時に備えて、電池の残量を定期的に確認し、必要なら新しい電池と取り換えてください。



■乾電池の取り換え時期は

電池の残量の目安を知るには

電池切換つまみを「主電池」に合わせて、ラジオの電源をいれ、電池残量ボタンを押します。

ランプの状態			
意味	残量は充分です	残量が少なくなっています	電池が消耗しています 新しい電池に取り換えてください

電池の持続時間は	(JEITA*)	
	FM	AM
ソニー単1形 (R20) マンガン乾電池	約160時間	約170時間
ソニー単2形 (R14) マンガン乾電池	約74時間	約79時間
ソニー単3形 (R6) マンガン乾電池	約23時間	約25時間
ソニーリチウム電池CR-123A	約33時間	約35時間

* JEITA (電子情報技術産業協会) 規格による測定値です。実際の電池持続時間は使用する機器の状況により変動する可能性があります。

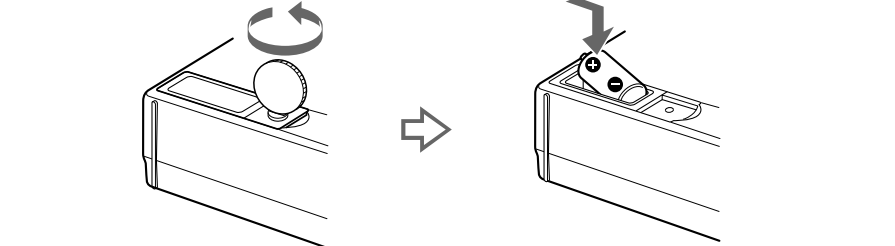
■リチウム電池の取り換え時期は

このラジオには、あらかじめ予備用のリチウム電池が入っています。このリチウム電池の残量が十分であれば、万一乾電池が消耗していても、ラジオを使うことができます。1年に1度、防災の日などに残量の確認をしてください。

リチウム電池の残量を知るには

電池切換つまみをリチウム電池側に合わせて、ラジオの電源をいれ、電池残量ボタンを押します。ランプの点灯が2つ以下の場合は、電池を取り換えてください。リチウム電池は非常時の予備用につき、早目に取り換えることをおすすめします。

リチウム電池を交換するには



- 1 リチウム電池入れのネジを、コインなどで左に回してふたを開ける
- 2 新しいリチウム電池CR-123A (別売り) を、+と-の向きを正しく入れる
- 3 ふたを開め、ネジを右に回す

使用上のご注意

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- イヤホンのコードを強く引っばらないでください。
- 次のような場所には置かないでください。
— 温度が非常に高い所 (40℃以上) や低い所 (0℃以下)。
— 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
— 風呂場など湿気の多い所。
— 窓を開めきった自動車内 (特に夏季)。ほこりの多い所。
- ラジオ内部に液体や異物を入れないでください。
- 汚れたときは、柔らかい布でからぶきしてください。シンナーやベンジンは表面をいためますので使わないでください。
- キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけないでください。スピーカーの磁石の影響でカードの磁気に変化して使えなくなることがあります。
- このラジオのテレビ音声回路は、FM放送の受信回路と兼用であるため、一部の地域ではテレビ2、または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。このときは、ソニーの相談窓口または、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

防水性についてのご注意

このラジオは、多少の雨や雪、水しぶきのかかるところでも使える防滴機構になっていますが、次の点に十分ご注意ください。

● 大量に水をかけないでください。

● 水の中につけないでください。

● 水がかかったり、水中に落ちた場合は、すぐ引き上げて、乾いた布で水分を拭き取ってください。特に電池ふたの内部は防滴機構ではありません。電池は錆びることがありますので、電池入れの中も以下のように拭き取ってください。
— 電池ふたの開閉は、水のかからないところで、乾いた手で行います。
— 電池と、電池入れの中をよく拭き取ります。特に、端子部分に水分が残らないようにします。

● スピーカー内に水が入った場合は、本体をさかさまにして水を出してください。

万一故障した場合は、内部を開けずにソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

受信周波数	FM：76～108 MHz (TV1～3チャンネル) *1 AM：530～1605 kHz
スピーカー	直径7.7 cm 丸形3.2 Ω 1個
出力端子	◎ (イヤホン) 端子 (ø 3.5 mm ミニジャック) 1個
実用最大出力	150 mW (JEITA *2)
電源	DC3 V、単1、単2または単3形乾電池、各2本 またはリチウム電池CR-123A 1本
最大外形寸法	約172×133×62.7 mm (幅×高さ×奥行) (JEITA)
質量	約671g (単1形乾電池、リチウム電池含む)

*1 地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。
*2 JEITA (電子情報技術産業協会) 規格による測定値です。

付属品

ソニー単1形乾電池 (お試用*) (2)
キャリングベルト (1)
蓄光シール (1)
取扱説明書・保証書 (1)
ソニーご相談窓口のご案内 (1)

* 付属の乾電池はお試用です。購入する場合はソニーアルカリ乾電池をおすすめします。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なしに変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときは

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではラジオの補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、サービス窓口にご相談ください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などは ホームページをご活用ください。		http://www.sony.co.jp/support	
使い方相談窓口 フリーダイヤル……………0120-333-020 携帯電話・PHS…一部のIP電話… 0466-31-2511		➡	左記番号へ接続後、 最初のガイダンスが 流れている間に
修理相談窓口 フリーダイヤル……………0120-222-330 携帯電話・PHS…一部のIP電話… 0466-31-2531 ※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。		➡	「304」＋「#」 を押してください。 直接、担当窓口へ おつなぎします。
FAX (共通) 0120-333-389 受付時間 月～金:9:00～20:00 土・日・祝日:9:00～17:00			

<http://www.sony.co.jp/>